

素敵なえにしを、「恩おくり」

雨宮由紀枝

日本女史体育大学スポーツ健康科学教授

上村数洋さま、やよいさま

口でくわえたスティックでこの分厚い資料を作成するだけでも、どれほどのエネルギーと時間をかけてくださったことでしょうか。そのことに、まずは感謝の気持ちでいっぱいです。ご自身の経験を、ありのままに伝えてくださる素直な言葉の数々。たくさんの熱い思いが伝わってまいりました。

「私を支えた3つの宝物」とは。

家族の愛、支援技術との出会い、人との出会い。

数洋さんにとっては、奥さまのやよいさんとの出会いが、人生の最大の力となったのですね。お嬢様が背伸びをして洗髪しているお写真。なんだか涙が出てきました。本当に素敵なお家族ですね。

それから、畠山先生との運命的な出会い。志を同じくする、たくさんの仲間たち。

これらのたくさんの宝物を引き寄せたのは、間違いなく数洋さんご自身の力なのだろうと思いました。

最も印象に残ったのは、「当事者の視点」の重要性です。

こんな物があったら、あんな風にしたいという願いが、技術を発展させていくのですね。「必要は発明の母」とは、よく言ったものです。

技術者がアドバイスを受け入れてくれなかったので、商品化しても案の定売れなかったという事例には、思わず納得。

本人に聞かずに、専門家がよかれと思ってやっても、的外れになることは良く起こります。当事者の視点の大切さを、もっともっと認識しなければいけませんね。

「交通事故」と聞くと、今でもキュッと身体が縮みます。父の交通事故の知らせを受けたあの日。受話器を握りしめて緊迫したやりとりをする母の声は、震えていました。あのときの母の姿とやよいさんが、重なります。

それから繰り返された30回を超える手術。生死をさまよう日々。そして、父は身体障害者手帳を持つようになりました。本当は、家族が協力しなければいけないということはわかっていたのですが、思春期の私は、反抗ばかりしていたなあ。。

事故に遭った本人が一番大変ですが、家族も一緒に大変です。

あの怒涛の日々は、私たち家族も大変ではありましたが、だからこそ出会えた大切な人々がいることに、改めて気付かされました。

「恩おくり」がLife Workという言葉も、心に残ります。

あの大変だった頃、私たち家族は、たくさんの方々から恩を受けました。その方々に直接お返しすることは、なかなか叶いません。

でも、「恩おくり」なら、これからでもできますね。

ゆきさんからいただいたこの素敵なえにしも、自分のものだけにせずに、ちゃんと「恩おくり」をしなければと、今、気持ちを新たにしております。

春から参加させていただいている、ゆきさんの「でんぐりがえしプロジェクト」。

わかったつもりのことが、実は全然わかってないことに気付かされ、私の頭の中も毎回でんぐりがえしです。

心に残る素敵なお話を、ありがとうございました。

お身体、どうかくれぐれもお大切にお過ごしくださいませ。上村さんご夫妻の支援を心待ちにしている、たくさんの方々のためにも。